

様式第 2 号(第 7 条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和 6 年度第 1 回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和 6 年 8 月 3 0 日（金曜日） 午前 1 0 時 3 0 分～午後 1 2 時 2 0 分
3 会議の開催場所	さいたま市岩槻人形博物館会議室
4 出席者名	新井委員長、是澤副委員長、大越委員、小野寺委員、中村委員、抜井委員、水落委員、三次委員、森田委員
5 欠席者名	無し
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) 1 報告事項 令和 6 年度事業について 2 審議事項 令和 7 年度事業計画（案）について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0 名
9 審議した内容	令和 7 年度事業計画（案）について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

令和6年度第1回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月30日（金） 10時30分から12時20分まで
- 2 場 所 岩槻人形博物館 会議室
- 3 出席者 (1) 委員（9人）
新井久代委員長、是澤博昭副委員長、大越久子委員、小野寺秀一委員、中村美帆委員、
抜井ゆかり委員、水落恵一委員、三次宣夫委員、森田由美子委員
(2) 事務局
スポーツ文化局 鶴田局長、川田文化部長
岩槻人形博物館 田中館長、岩崎副館長、武井係長、林係長、江口主査、岩田主任、
高橋主事
※オブザーバー にぎわい交流館いわつき 中村館長、大金運営総括マネージャー
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容 以下「次第」のとおり
＜次第＞
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 報告事項 令和6年度事業について
 - (2) 審議事項 令和7年度事業計画（案）について
 - (3) その他
 - 4 閉会

＜議事内容要約＞

報告事項 令和6年度事業について

事務局から資料に基づく説明があり、これに対し各委員から次の通りの意見があった。

- 「にんぱくの人形修復～文化財を未来へ～」(以下、修復展)の展示解説が2回とも20名参加だが、これは定員が20名だったのか。
事務局 定員はない。偶然である。
- 夏休みワークショップの午後の部の参加者が少ない。あえて日曜日に限定せず、平日に開催しても良いのではないか。ただし、子どもに同伴する保護者の都合も考慮しなければならない。ワークショップは、親子での参加が多いのか。
事務局 基本的には、親子での参加が多い。夏休みワークショップは今後定着させていき、認知度を向上させたい。それにあわせて日時についても今後検討していきたい。
- 現在開催中の修復展は、岩槻人形博物館でしかできない重要な展覧会だと感じる。修復の人材育成の体制がよくできていること、修復履歴の蓄積を意識していることがよくわかる。館内

で修復を行うということは、作品を外に持ち出す危険性がなく、館にとっても修復者にとっても喜ばしいことであり、その環境をこの館でいち早く築くことができたことは良いことである。修復というのは化学的な部分の知識、多少の芸術的センスが必要な高度な仕事であることがよく伝わる展示であった。

- 修復展映像のスクリーンが見え難かったので、不透明な白スクリーンを使用する等、何か工夫が必要ではないか。
- 教育普及がワークショップ等の人形を作るだけになってしまっている印象がある。もう少し違う方向性もあって良いのではないか。

事務局 ワークショップを行う前に教育普及の観点から10分ほど講義の時間を設けている。ワークショップは、校外学習や展示解説と同じく教育普及の一環として行っているものである。

- 今回の修復展は新しい試みであると感じた。一般の方は、博物館において修復と保存が大事な活動であると知らないことが多い。人形という事例を通して、博物館そのものへの理解を深めてもらうようなアプローチができるという点で感銘を受けた。毎年と言わずとも、定期的に修復にスポットを当てても良いのではないか。
- 夏休みワークショップについて、参加者が少ないように思う。プラ板とレジンであれば、当日先着何名までといった方法で直前まで募ることもできるのではないか。
- 作る以外のワークショップだと、障害のある方と観覧する対話型鑑賞、障害のある方以外でも鑑賞したことをお互い話し合えるような仕組みの対話型鑑賞ができるよう、働きかけるのはいかがか。雛人形を見ると思い出話で盛り上がるという話を聞いたことがある。また人形の写真をどのように撮ると人形の良さが出るといった形で理解を深めるのも、写真撮影が可能な岩槻人形博物館の展示室ではありなのではないか。

事務局 現在、当館で実施しているのは、解説型鑑賞のみだが、今後、方向性の1つとして対話型鑑賞についても検討したい。

- 広報について、南北線で中吊り広告を見かけた。無料で埼玉高速鉄道に協力いただけるのは露出効果としてすごく良いと思う。岩槻駅でも、ポスターの掲示や博物館の案内表示がわかりやすく掲示されていて、駅で応援していることが伝わる。
- 認知度と来館者数の増加のため、無料の来館者を増やすことを最初のきっかけにするアプローチは、開館5年目の博物館としては良いが、長期的には、なるべく有料で入館してもらうように方向性を変えていくことが望ましい。
- 女性の中で金継ぎのワークショップ等、和のワークショップが人気を集めている。組香のワークショップを月1回等、定期的に開催すると利用者が見つけやすく、来館につながるのではないか。
- SNSに関しては、色々工夫していると思う。特にヨロ研カフェとの連携事業のコースターについて、もらってから抽選までを動画にしたリールがわかりやすく良かった。その他のリールでも画像の加工等もしており、若者向けにも良いのではないかと感じた。
- ホームページの大宮盆栽美術館コラボバナーがトップページに表示されるようになっており、とてもわかりやすい。大宮盆栽美術館との連携で利用者が相互に行き来できるような仕組みは必要だと思う。期間限定ではなく今後もこのバナーは残した方が岩槻人形博物館にとって

も良いのではないかと。

- 観光地に行く際、Google マップなどで、自分がいる位置から近い場所や評価の高いところに行くといった観光客が多い。投稿されたコメント欄も参考になる意見が多いため、確認すると良いのではないかと。
- 春日部市の首都圏外郭放水路は非常に人気があるスポットであるので、連携ができれば、大変強いツアーコンテンツになると考える。
- 若年層の取り込みについて、推し活観光というものがあり、著名人がドラマの撮影やミュージックビデオの撮影に使用した場所を訪ねる方が非常に多い。さいたま市のロケーションサービスだけでなく、外部のサイトにも登録しておくことでテレビの制作関係者の目に留まるかもしれない。岩槻人形博物館の撮影地としての利点として、駐車場が広いところをアピールすると良いのではないかと。
- 市のロケーションサービス以外に外部サイトに登録することは市として問題ないかと。

事務局 問題はないが、博物館の利用を妨げにならないよう、バランスを取って行ってきたい。

- 現在、東武鉄道が実施している「東武アーバンパークライン開運御縁線巡り」のような地域情報をリポストし、その参加者に岩槻人形博物館にも寄ってもらうよう誘導してみてはどうか。また、同様に、神社や岩槻人形博物館、大宮盆栽美術館を巡る企画を東武鉄道に検討してもらってはどうか。
- ワークショップでオリジナル缶バッジ作りを行っていたが、展示してある人形を形にするという発想は非常に面白い。「この人形の缶バッジが作れる」等の事前情報があれば、小・中学生たちが展示を見る楽しみが増える。今後も続けてほしい。
- 以前、高橋まゆみ人形館を訪れた際、交流のある人形作家の作品コーナーがあり、その作家を来館者が興味を持って検索しており、広がりを感じる面白い取組だと思った。
- 修復展について、夏休み期間にあたるが、修復展を観覧した子どもからは、説明する人がおらず、人形を見ただけでは理解することができなかったと聞いた。放送などの音声による説明があると良いかもしれない。また、夏休みにむけて、子どもの興味を引くような世界の人形などの展示があると楽しいのではないかと。
- 静かに観覧したい来館者にとって音声を流すことは鑑賞の妨げになってしまうのではないかと。例えば、子どものためのギャラリートークなど、「子どものため」に特化した催しがあると良いのではないかと。
- 教育普及事業において、展示解説等を多く行っているが、これらの告知はどのように行っているのか。

事務局 展覧会に付随するものであればチラシやポスター、その他の場合も市報やホームページ、Instagram 等で発信している。

- 観覧するなら展示解説を受けたいという来館者は多いので、積極的に告知を行ってほしい。

審議事項 令和7年度事業計画（案）について

事務局から資料に基づく説明があり、これに対し各委員から次の通りの意見があった。

- 令和7年度の展覧会について、バランス良く企画されていて開館5周年を迎えて次の段階に入ったことが伺える。夏休みを中心に新しい試みを始めるということで、これが定着するまでは4～5年はかかるかもしれないが、着実に展開しているという点で非常に安定感が出てきていると感じる。

- 夏季の夜間開館について、取組自体はとても良い。同様の取組を実施している都内の美術館で聞いた話だが、昼間より来館者数は望めないものの、思ったよりも美術館近辺に住んでいる方の来館が多いことがわかったとのこと。ただ、都全体の事業としてやっている取組であり、来館者が少なくても言い訳がつく。来館者数を伸ばさなければいけないというプレッシャーが加わると館にとって負担になるため、上手く立ち回らなければならない。

事務局 受付業務等の委託業者との調整など、様々なハードルをクリアする必要がある。週末だけの限定的な開館時間変更等も視野に入れ、先進事例等を参考に検討する。

- 東武鉄道のハイキングで来館者が増えたと聞いたが、来年度はどのような考えであるのか。

事務局 協力体制を取り、来館者の増加にむけて引き続き連携していきたい。

- 「(仮) にんばく動物園」について、動物はそもそも人形なのか。人形という概念そのものを館として定める必要があるのではないかと。節操がなくなってしまうのは良くない。理論武装が必要である。

- 「(仮) 人形からひもとく岩槻の歴史」について、人形の歴史を語るときに岩槻ローカルだけでは、語れない部分がある。東京との関連等、色々な広がりがあるため、「岩槻の人形博物館」というよりも、「人形の博物館が岩槻にある」という視点を持っていた方が良い。岩槻ローカルにこだわりすぎず、色々な広がりを模索した方が良い。

- 日米人形交流100周年を2027年に迎えるため、様々なところで動きがある。その動きを見てみると、人形が好き、交流事業等の周辺部分が好き、普通の人が興味を持つといった3つのパターンがある。

- こだわりが強いコアな層へ向けた展示、お祭りや山車人形の調査等、周辺事業に興味のある層に応える展示、それに加え一般の人に向けた展示と3つのパターンがある。そういった点で来年の展示内容は、バランスがとれ、よく工夫してあるのではないと思う。

- 「(仮) にんばく動物園」と「(仮) ミニチュア×雛祭り」を見て、シルバニアファミリーを想像した。シルバニアファミリーを好きな層は世代問わず多く、SNSでも写真を撮って発信するなどしており、世界的にファンがいる。ドールハウスの規格とシルバニアファミリーの規格が合っているため、シルバニアファミリーとミニチュアが好きな層は結構重なっている。動物をどう扱うかの理論武装は必要だが、新しい層にアピールするという意味では、動物とミニチュアの組み合わせはやり方次第ではかなり可能性が広がる。ミニチュア好きな方は雛祭りなどでコンスタントにこの館のファンになってもらえるのではないかと。ただし、やり方に気を付けないと一時的な消費で終わってしまうので注意が必要である。

- 学生を連れて来館した際に、思った以上に面白かったという感想があった。また、館の

Instagram はほぼ毎日更新されており、SNS ネイティブである学生から見てもかなり、投稿を頑張っているのではないかと意見があった。

- ミニチュアは中高年女性に受けが良く、写真の撮影も雛人形より雛道具にカメラを向ける方が多い。「(仮) ミニチュア×雛祭り」はとても良いと思う。
- 夏期の夜間開館（ナイトミュージアム）について、長期間の実施が難しいようであれば、妖怪や怪談関係のイベントと組み合わせて限定的に開催するのはどうか。
- コロナ禍が明け、インバウンドが回復してきているので、インバウンドを意識した事業を計画するよう検討してほしい。

事務局 当館では音声ガイドシステムによる多言語化を検討している。インバウンドについては、観光部門の事業と連携する形で、音声ガイドシステムをはじめ、受け入れ態勢を整えていきたい。

- 来館者数の減る夏場等含めリピーターを増やすために、雛めぐりの期間等、来館者の多い時期に今後開催する展覧会やイベントについて常に発信できるような仕組みを作る必要があるのではないかと
- 岩槻では、まちの取組として区内の事業主などが講師となり専門知識等を講義する「まちゼミ」を開催しており、このような取組に参加してはどうか。博物館の展示に加え、博物館の会議室を利用し、まちゼミのようなワークショップ等も開催することで来館者をより楽しませることができるのではないかと。雛祭りの時期は、区内でも様々なイベントが行われ、博物館でも多くの方が来館されると思う。また、3月3日は月曜日であり本来は休館日であるが、来年は開館することなので、岩槻・人形文化サポーターズとして、博物館と連携したイベントを行いたいと考えている。
- 夏期における開館時間の変更する場合、ヨロ研カフェの営業時間の変更もあわせて検討してほしい。
- 「(仮) 人形からひもとく岩槻の歴史」について、来年度は、岩槻合併20周年にもあたり、とてもタイムリーな事業であるため、十分に内容を検討してより良い展覧会にしてほしい。
- 岩槻は人形職人が多いが、作られた人形は全国に出荷してしまうため岩槻にはあまり残らない。そういった観点から現代の岩槻の人形を展示するのも面白いのではないかと。現在の展示内容が人形協同組合とかけ離れており、職人の技術などを展示できるとより興味を持ってもらえるのではないかと。

その他について

その他、各委員から次の通りの意見があった。

- 文化的な遺産について、市長部局と教育委員会で交流を図った方が良いのではないかと。市教育委員会が「文化財保存活用地域計画」を作成しているが、人形や盆栽の位置づけが曖昧であり、どちらかといえば伝統産業のような位置づけとなっている。特に人形は、将来市の文化財になる可能性があるにもかかわらず芸術的側面が蔑ろにされていると感じる。行政的な枠を超えて文化というものを考える姿勢を持ってほしい。

事務局 市長部局としても、教育委員会との連携は必要であると考えているので、今後もしっかり連携を図っていききたい。

- 文化財の修復について調査をしていると誤った修復をしてしまう方が多い。修復展の開催を機に、文化財の修復について修復技術を広め、修復者を増やすような取組をしてほしい。
- 保有している美術作品や人形等をどのように保存すれば良いのか関心を持っている方は多いと思うので、人形の手入れ方法など、素朴で日常的な疑問に答えるワークショップがあってもよいのではないか。

事務局 修復展での内覧会の際、岩槻人形協同組合の一部の方から、博物館の修復事業と連携していかなければならないとのご意見も伺ったので、今後も組合との連携も深化していきたい。

会議録作成

事務局が作成の上、その確認については委員長に一任することとされる。

令和6年度 第1回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会



さいたま市
岩槻人形博物館
IWATSUKI NI

日時：令和6年8月30日（金）午前10時30分～
場所：さいたま市岩槻人形博物館 会議室

令和6年度第1回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 次第

日時：令和6年8月30日（金）
10時30分から11時30分まで
場所：さいたま市岩槻人形博物館会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

- (1)報告事項 令和6年度事業について
- (2)審議事項 令和7年度事業計画（案）について
- (3)その他

4. 閉会

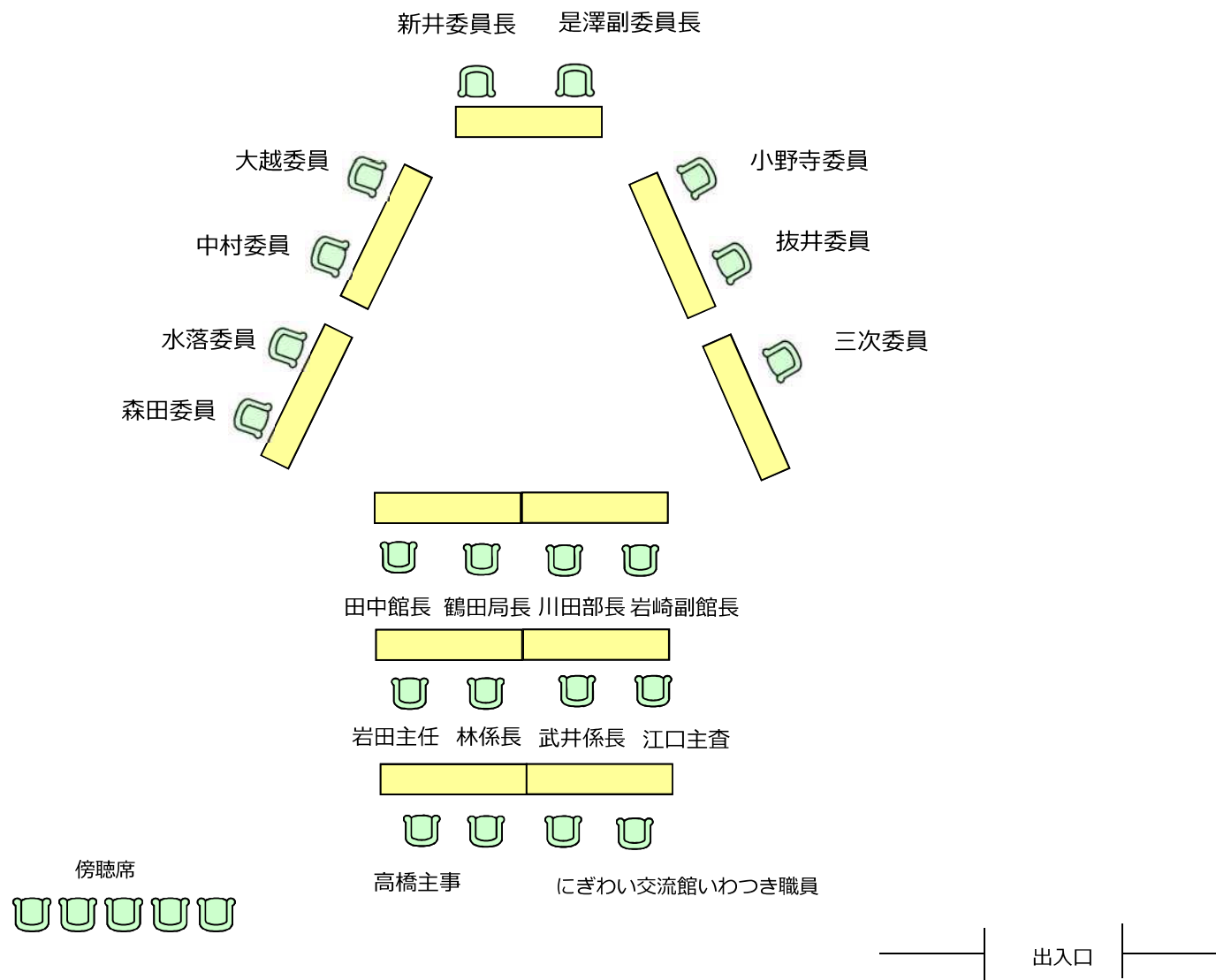
委員名簿

(敬称略 五十音順)

氏 名	所 属
新井 久代	公益財団法人遠山記念館 学芸員
大越 久子	元埼玉県立近代美術館 主任専門員
小野寺 秀一	東武鉄道株式会社 岩槻駅長
是澤 博昭	大妻女子大学 教授
中村 美帆	青山学院大学 准教授
抜井 ゆかり	立教大学 兼任講師
水落 恵一	NPO法人岩槻・人形文化サポーターズ 理事
三次 宣夫	岩槻区自治会連合会 会長
森田 由美子	岩槻人形協同組合 婦人部長

任期：令和4年9月1日から令和6年8月31日まで

席次



議題

(1) 報告事項 令和6年度事業について

令和6年度事業について

1. 展示事業

特集展示

「こんな人形、集めました！－西澤笛畝の人形コレクション選－」

会 期：令和6年4月27日（土）～6月30日（日）

開館日数：58日 来館者数5,931人

《関連イベント》

①ワークショップ オリジナル缶バッジ作り

期 日：5月5日（日・祝）、6日（月・休）

参加者数：200人

②ボランティアによるGW展示解説

期 日：5月3日（金・祝）、4日（土・祝）5日（金・祝）各日2回開催

参加者数：総計90人 案内役ボランティア：5名



企画展

「にんばくの人形修復～文化財を未来へ～」

会 期：令和6年7月20日（土）～9月8日（日）

開館予定日数：45日間 来館者数2,093人（8月18日現在）

《関連イベント》

①学芸員と修復技術者による展示解説

期 日：7月27日（土）参加者数20名、8月25日（日）参加者数20名
9月1日（日）

②トークイベント「文化財修復技術者として生きる」

期 日：8月3日（土）参加者数33名

登壇者：新井榛名氏（当館修復技術者）ほか

③講演会「博物館コレクションの保存修復」

期 日：8月31日（土）

講 師：野中昭美氏（東京国立博物館 保存科学課保存資料室主任研究員）



令和6年度事業について

特別企画展

「忘れたくない、大切なもの—高橋まゆみ人形展—」

会 期：令和6年9月21日（土）～12月8日（日）

開館予定日数：71日間

《関連イベント》

①高橋まゆみ氏による展示解説

期日：9月21日（土）、10月19日（土）



企画展

「開館5周年記念 雛祭り展（仮）」

会 期：令和7年1月25日（土）～3月23日（日）

開館予定日数：52日間

毎年恒例の雛祭り展で開館5周年を記念し、雛人形を中心に当館の名品を紹介する予定



古今雛 江戸時代

特別公開

「にんぱくのスター 犬笛」

会 期：令和6年12月13日（金）～12月27日（金）

開館予定日数：12日間

当館を代表する名品「犬笛」を展示室3において限定公開する予定



犬笛 江戸時代

令和6年度事業について

2. 教育普及事業

(1) ワークショップ等

①～夏休みワークショップ～

プラバンとレジンで作る"にんぱくオリジナル"キーホルダー

令和6年8月4日（日）①10:30～11:30（参加者11人）

②13:30～14:30（参加者4人）



にんぱくオリジナルキーホルダー

②つくろう、犬笛 ～いぬばこの絵付け体験～

令和6年12月15日（日）14:00～16:00

定員:16名

本物の犬笛を鑑賞した後、手のひらサイズの犬笛型に絵付けをする



犬笛（絵付け例）

③雛道具の世界 ～組香をやってみよう 三炷香～

令和7年2月11日（火・祝）10:00～11:30、13:00～14:30、
15:00～16:30 定員:各回18名

雛道具のなかにある香道具や香道を学び、組香を体験する



組香の道具

④つくろう、おひなさま ～ふじ雛の絵付け体験～

令和7年2月15日（土）10:00～12:00、14:00～16:00

定員:各回16名

富士山の形をした縁起の良いお雛様（ふじ雛）の型に絵付けをする



ふじ雛（絵付け例）

令和6年度事業について

2. 教育普及事業

(2) 展示解説

種別	内容
定例 (学芸員)	計12回(予定)。毎月22日に開催。
定例 (ボランティア)	計10回(予定)。6月より、ひと月1回(土日)に開催。
特別展示解説 (ボランティア)	計22回(予定) 5月上旬、11月上旬、2月下旬～3月上旬の土日に開催。

(4) ボランティアの活動

【活動実績】

(令和6年7月末現在)

内容	実施回数	延べ人数
研修	3回	19人
ワークショップ	2回	7人
展示解説	8回	8人
学校見学	5回	5人
合計	18回	39人

登録者数：13人

(3) 博学連携(学校見学等受入れ)

【受入実績】

(令和6年7月末現在)

内訳	学校数	参加人数
市内	5校	268人
市外	3校	304人
合計	8校	572人

【受入予定】

24校(市内14校、市外10校)

(5) その他

夏休み企画「岩槻こども人形博物館」

期 間：令和6年7月20日(土)
～9月1日(日)

内 容：岩槻の人形について学べる
「学習シート」を配布。

期間中に利用すると、小学生
は観覧料が無料。

参加者数：145人(8月18日現在)

令和 6 年度事業について

3. 人形資料等調査・研究・修復事業

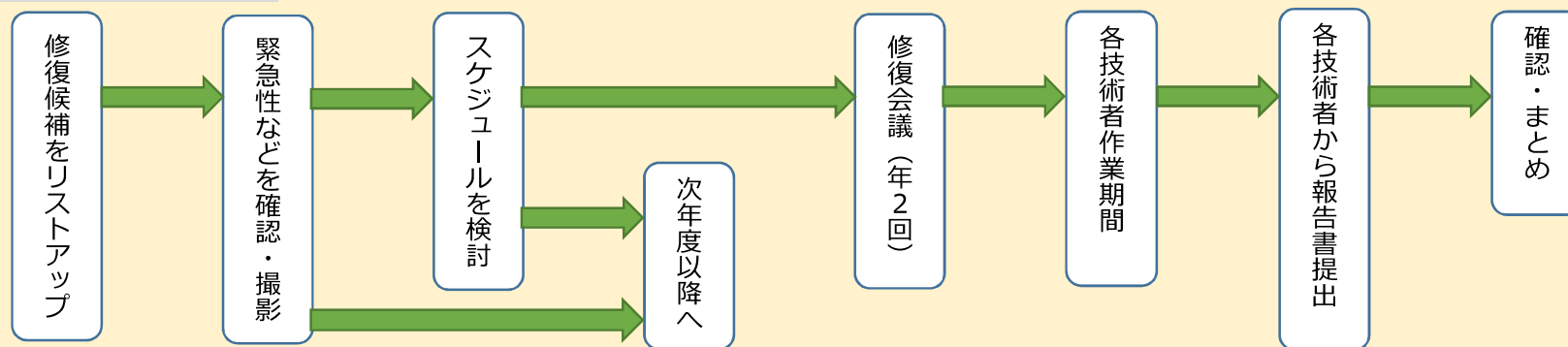
(1) 人形資料等修復

文化財修復技術者（会計年度任用職員）4 名による資料修復を実施

館内では取り扱いが難しい修復（主に紙資料）に関しては委託業者に依頼

年度	令和元年度以前	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	合計
修復件数	397件	67件	39件	47件	54件	604件

修復事業の流れ



(2) 人形資料等収集（購入・寄贈）

年度	令和元年度以前	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	合計
購入件数	987件	8件	10件	13件	14件	1,032件
寄贈件数	4,424件	56件	15件	107件	13件	4,615件
合計	5,411件	64件	25件	120件	27件	5,647件

令和 6 年度事業について

4. 広報・プロモーションの実施

主な実施内容

(1) 浦和レッズホームゲームでのPRブース出展

浦和レッズのホームゲーム開催日にブース出展しサッカー観戦者に対して、企画展等のPRを実施

【日時】 4月20日(土) 13時～16時

6月30日(日) 15時30分～18時30分

【場所】 埼玉スタジアム2002



浦和レッズホームゲームでのPR

(2) WATSUストリートマルシェでのPR

毎月第3土曜日に岩槻駅前の賑わい創出のため、地元商業者等が開催する「WATSUストリートマルシェ」に出展し、特集展示等のPRを実施

【日時】 5月18日(土) 11時～16時

【場所】 岩槻駅東口クレセントモール



WATSUストリートマルシェの様子

(3) 埼玉高速鉄道(株)の中吊り広告の掲出

企画展PRのため、中吊りポスターを作成し掲出

【掲出期間】 6月25日(火)～9月8日(日)《予定》

【掲出場所】 10車両(6両編成)のすべての車両

※有料広告が入った場合は、変更となる可能性あり



埼玉高速鉄道(株)中吊り広告 10

令和 6 年度事業について

(4) 企画展に合わせたホテル・公共施設でのレプリカ等展示

- ・大宮盆栽美術館（7月12日（金）～7月17日（水））
- ・パレスホテル大宮（7月19日（金）～8月2日（金））
- ・さいたま市中央区役所（8月5日（月）～8月21日（水））
- ・さいたま市役所本庁舎（8月21日（水）～9月3日（火））



パレスホテル大宮での展示

(5) 企画展限定、ヨロ研カフェとの連携事業

- ・ヨロ研カフェで買い物をした方を対象に当館で抽選会に参加できるコースターをプレゼント

実施期間：7月20日（土）～9月8日（日）

来館者数：325人（8月18日現在）



ヨロ研カフェ連携コースター

(6) ゆかたde盆美&にんぱく

- ・大宮盆栽美術館と連携し、ゆかたで来館すると観覧料が無料となるイベントを同時開催 両館ホームページに共通バナーを表示

実施期間：7月15日（月・祝）～9月8日（日）



※その他、公式Instagramや情報系サイトによる情報発信は引き続き積極的に実施。

5. 地域との連携

- ・NPO法人岩槻・人形文化サポーターズとの連携事業の実施
- ・岩槻まつり、まちかど雛めぐり等の地域イベントと連携したPR
- ・「にぎわい交流館いわつき」との連携イベント

議題

(2) 審議事項 令和7年度事業計画（案）について

令和7年度事業計画（案）について

【令和7年度目標】

さいたま市総合振興計画基本計画実施計画（令和3年度～令和7年度）

目標指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間来館者数	目標	77,000人	74,000人	74,000人	74,000人	74,000人
	実績	29,254人	32,421人	39,656人	—	—
館の認知度 ①市内在住者 ②在勤者	目標	—	①42.0% ②27.0%	①44.0% ②28.0%	①47.0% ②29.0%	①50.0% ②30.0%
	実績	—	①39.5% ②29.6%	①41.1% ②26.5%	—	—

1. 展示事業

（1）基本的方向性

[展覧会] リピーターの獲得及び幅広い層への訴求を意識した展示を実施

年4回《特集展示、企画展（夏）、特別展、企画展（雛）》

[常設展示] リピーターを逃さないためにコレクションを幅広く活用した展示替えを実施

年10回程度

令和7年度事業計画（案）について

（２）展覧会計画及びスケジュール

		2025年									2026年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展覧会		←→			←→			←→			←→		
		4月下旬～6月下旬 特集展示 (仮) 収藏品展Part2			7月下旬～9月上旬 企画展 (仮) にんぱく動物園			10月上旬～12月上旬 特別展 (仮) 人形からひもとく 岩槻の歴史			1月下旬～3月中旬 企画展 (仮) ミニチュア×雛祭り		
常設展		←→ 展示替え10回程度 空スペース、展示室3を活用した展示等の実施											

特集展示

(仮) 収藏品展Part2

狙い **バラエティに富んだ収藏品の魅力を紹介**
内容 西澤笛畝とそのコレクションの多様性を紹介

企画展

(仮) にんぱく動物園

狙い **子どもと大人が楽しめる夏休み向け企画展**
内容 動物をテーマに人形文化に触れる企画展

特別展

(仮) 人形からひもとく岩槻の歴史

狙い **岩槻区合併20周年を記念した企画を実施**
内容 人形という切り口から岩槻の歴史を取り上げる

企画展

(仮) ミニチュア×雛祭り

狙い **雛祭りや雛人形の歴史・文化の普及**
内容 ミニチュアをテーマに雛人形、雛道具を紹介

令和7年度事業計画（案）について

2. 教育普及事業

（1）ワークショップ・講座・講演会 等

【基本的方向性】

ワークショップについては、引き続きボランティアを中心とした準備・開催を目指し、定番的な内容のワークショップを通年実施する。講座・講演会については、各展覧会のテーマに応じて実施を検討する。

（2）博学連携（学校見学等受入れ）

【基本的方向性】

受け入れ体制の充実を図り、市内のみならず、市外の学校にも積極的にアプローチを行い学校見学の連携強化を図る。

（3）ボランティア活動

【基本的方向性】

研修や展示解説、ワークショップを通じて、更なるスキルアップを行うとともに、活動内容を拡充し、ボランティアの満足度の向上を図りながら、来館者の満足度につなげる。

3. 人形資料等調査・研究・修復事業

【基本的方向性】

当館コレクションの調査・研究を行い、その成果を展示などに生かすとともに、未来に継承すべき人形資料及び人形関連資料の収集を行う。

また、資料修復は劣化状況等を勘案しながら、優先順位を決定し修復を行っていく。

令和7年度事業計画（案）について

4. 広報プロモーション

【基本的方向性】

来館者数の増加や館の認知度の向上を図るため、市内外の他館連携の強化や周辺自治体との連携を図り、県内及び近県をターゲットに広報を実施

＜想定している内容＞

- ・周辺自治体等と連携したツアーの造成
- ・音声ガイドシステムの充実
- ・気候変動に対応した夏期における変則的な開館時間の検討
- ・若年層の取り込みを意識したソーシャルメディアの活用方法の再検討
- ・映画やドラマ等の撮影地としてメディア露出

5. 地域との連携

【基本的方向性】

- ・岩槻人形協同組合や岩槻・人形文化サポーターズなどの地域団体やにぎわい交流館いわつきと連携した取組や地域イベントは継続しつつ、連携内容の拡充を検討